

第17回 千里浜再生プロジェクト委員会

令和7年2月5日
石川県土木部河川課・港湾課

羽咋地区人工リーフ付近
2024(R6)年11月撮影

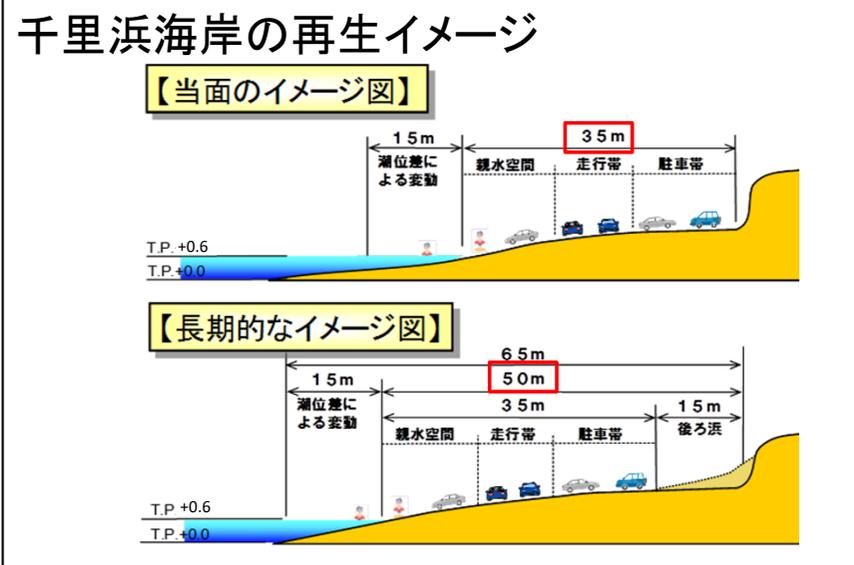
目 次

| | | |
|---|-------------------------|----|
| 1 | これまでの経緯 | 3 |
| 2 | 定期モニタリング成果に基づく実態解析 | 7 |
| 3 | 昨年度（令和5年度）の陸上養浜の結果 | 13 |
| 4 | 今年度（令和6年度）の陸上養浜状況報告 | 17 |
| 5 | 今年度（令和6年度）の海上採取・投入の結果 | 20 |
| 6 | 今後の侵食対策方針 | 29 |
| 7 | 海岸保全の意識向上のための取組み（ソフト施策） | 32 |
| 8 | まとめ | 37 |

1. これまでの経緯

千里浜再生プロジェクトの目的

- 千里浜再生プロジェクトは、「緩やかな曲線の美しい海岸線を保全」するために、海岸侵食の低減を図る。ことを目的として、「砂浜の維持・回復」、「砂浜保全に向けた県民意識の向上」を進めている。
- 千里浜再生のイメージとして、当面の目標(砂浜幅35m)と長期的な目標(砂浜幅50m)を掲げている。
- 千里浜再生プロジェクト委員会は、平成23年5月に第1回が開催され、これまでに計16回開催されている。



千里浜再生プロジェクトの侵食対策

千里浜再生プロジェクトにおいて、侵食対策として、以下の対策を実施してきた。

- 人工リーフ(今浜地区、羽咋地区)
- 養浜(海上投入、陸上養浜)
- 砂流出防止工(サンドパック)



図 千里浜海岸の対策箇所位置



人工リーフ(羽咋地区)整備状況
実施期間: H27~R4(完了)



R6採取状況



R6投入状況

撮影日: R6.5.22

海上投入
実施期間: H24~



撮影日: R3.9

砂流出防止工(サンドパック)
実施期間: H24~H29(完了)

これまでの経緯

令和6年2月に「第16回 千里浜再生プロジェクト委員会」を書面開催にて行い、陸上養浜の報告や今後の養浜計画について協議した。

| 年度 | 内 容 |
|----|--|
| R5 | 第4回技術専門部会 （令和5年6月2日） <技術専門部会における議題> ○陸上養浜採取箇所を選定 ○シミュレーションモデル（等深線変化モデル）の構築 |
| | 第5回技術専門部会 （令和5年10月26日） <技術専門部会における議題> ○陸上養浜採取箇所の検討 ○必要養浜量の検討 ○新たな養浜方法の検討（事例：ポンプ浚渫による海上投入） |
| | 第16回委員会 （令和6年2月） ※書面開催 <委員会における議題> ○令和6年度の海上採取範囲はこれまでの採取範囲でローテーションして実施することとする。 ○目標砂浜幅（No.22～No.65）の最低35m、平均50mを達成するために、年間5.5万m ³ （海上4.5万m ³ /年 + 陸上1.0万m ³ /年）投入することで千里浜海岸全体での砂浜回復を図る。 |



第17回委員会（令和7年2月5日）

- これまでの経緯
- 定期モニタリング成果に基づく実態解析
- 昨年度（令和5年度）の陸上養浜の結果
- 今年度（令和6年度）の陸上養浜の状況報告
- 今年度（令和6年度）の海上採取・投入の結果
- 今後の侵食対策方針
- 海岸保全の意識向上のための取組み（ソフト施策）

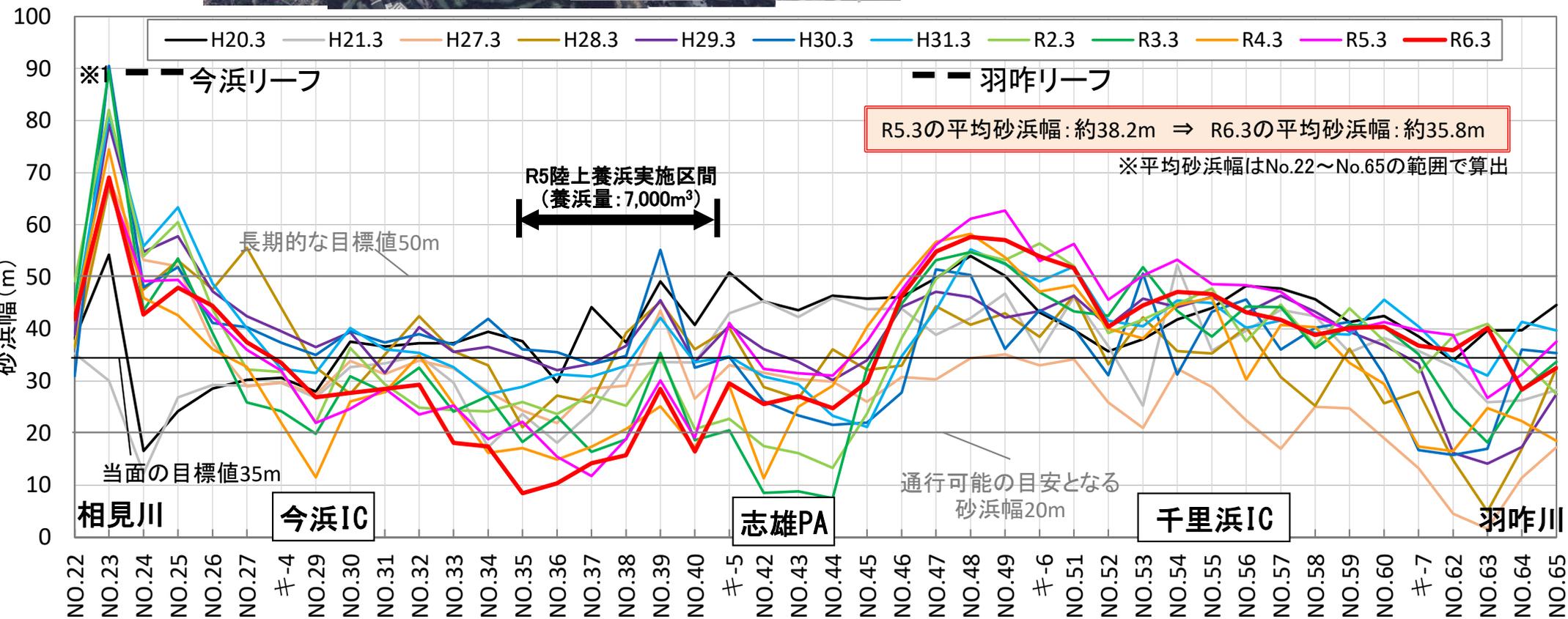
2. 定期モニタリング成果に基づく実態解析

千里浜海岸の砂浜幅 (3月)

令和6年3月時点でドライブウェイの通行可能な目安となる砂浜幅20mを下回る箇所があり、特にNo.35は10mを下回っている。

令和6年3月は令和5年3月と比較して平均砂浜幅が減少しており、直近1年間で見ると侵食していた。

※1: No.23は相見川河口部に位置しており、砂浜幅算出の基準が他測線と比較して陸側(黄点)に位置している。



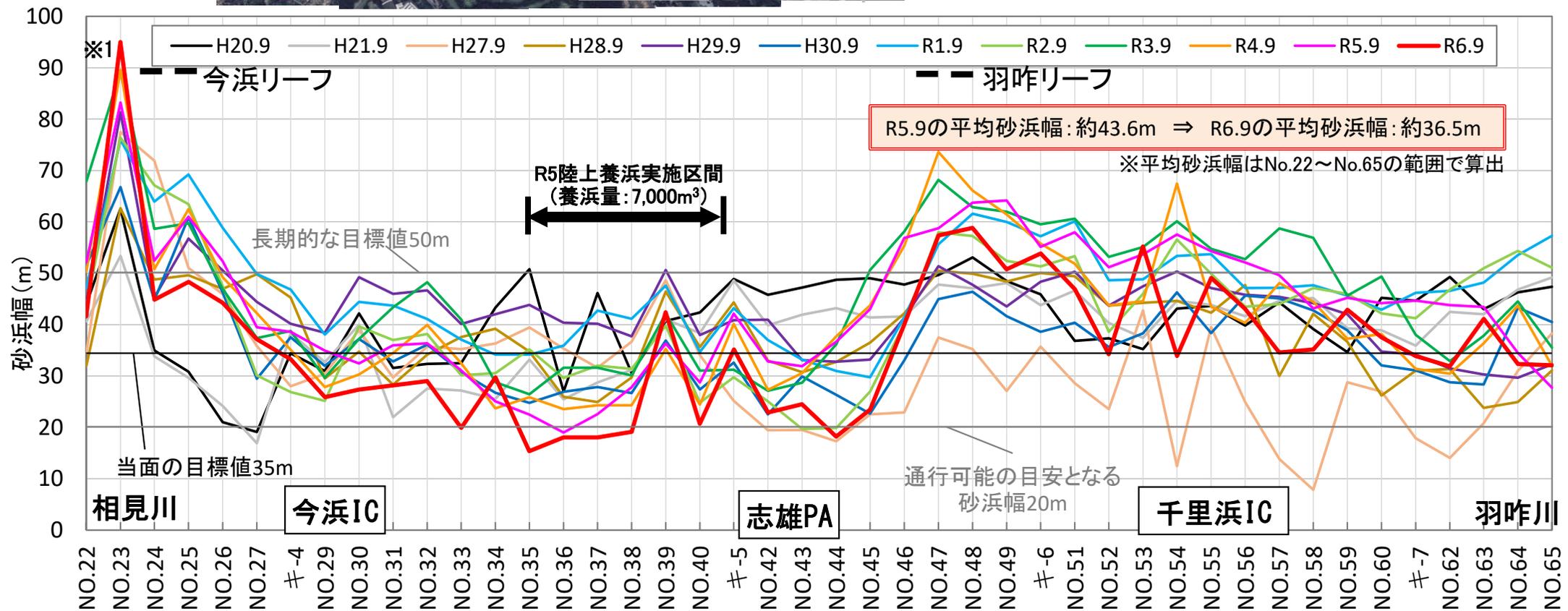
※砂浜幅は「護岸端部・ブロック端部・砂丘基部」から「T.P.+0.6m」までの距離とした。

千里浜海岸の砂浜幅 (9月)

令和5年度と比較して全体的に下回っており、特にNo.35～No.38付近では通行可能な目安となる砂浜幅20mを下回っている。

令和6年9月は令和5年9月と比較して平均砂浜幅が減少しており、直近1年間で見ると侵食していた。

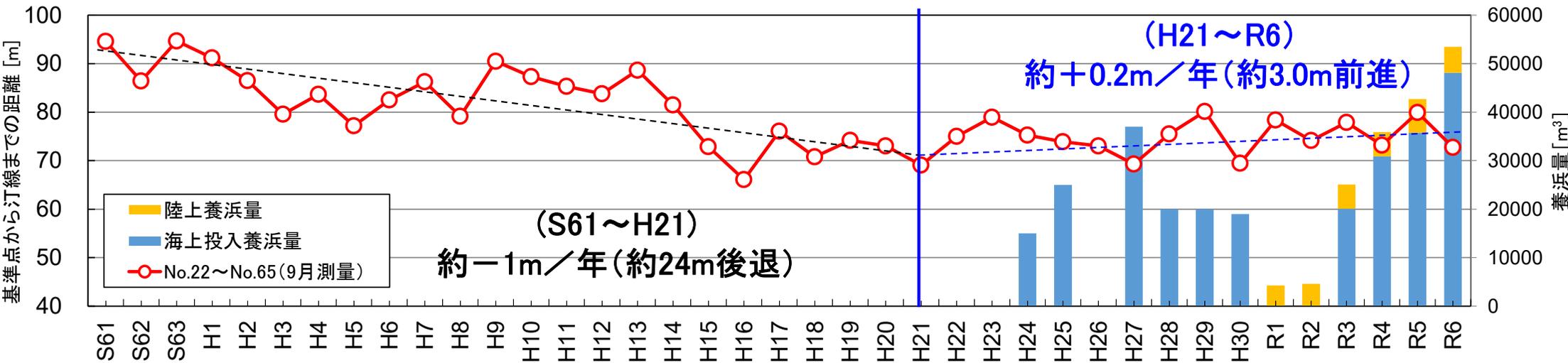
※1: No.23は相見川河口部に位置しており、砂浜幅算出の基準が他測線と比較して陸側(黄点)に位置している。



※砂浜幅は「護岸端部・ブロック端部・砂丘基部」から「T.P.+0.6m」までの距離とした。

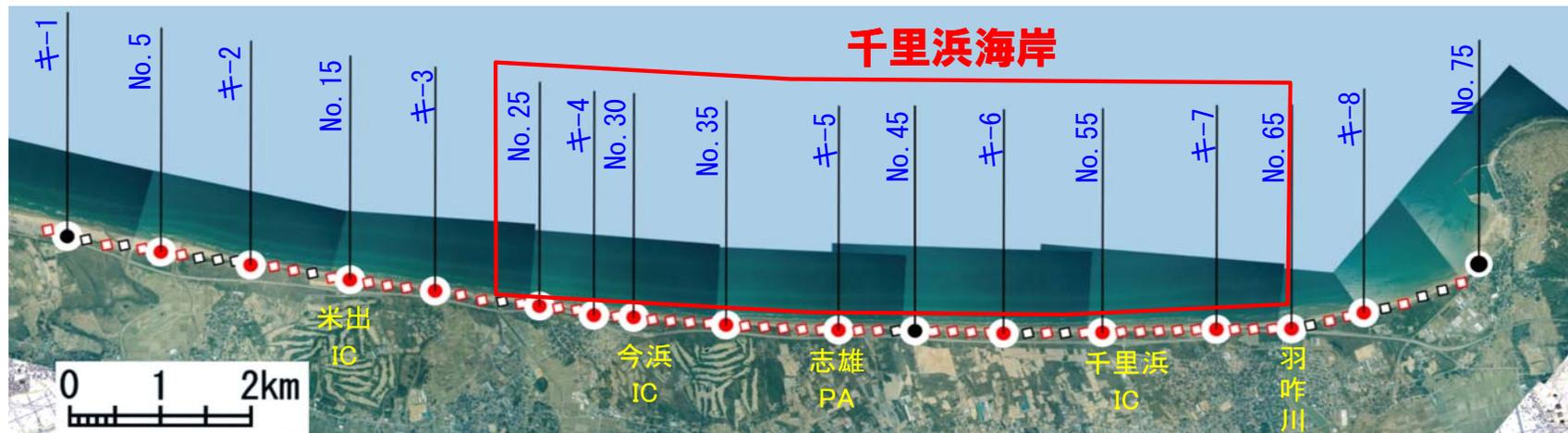
千里浜海岸の汀線変化（9月）

対策実施前は、9月の千里浜海岸全体での平均的な汀線後退量は約1m/年(S61~H21)だったが、千里浜再生プロジェクトで検討した人工リーフ、養浜(海上投入、陸上養浜)、サンドパックスの対策により汀線は約+0.2m/年(H21~R6)前進し、対策の効果がみられる。



H22 人工リーフ着手
H24 海上投入、サンドパックス着手

※千里浜海岸の『基準点から汀線(T.P.+0m)までの距離』を平均
※R6陸上養浜量はR7.2.5時点の養浜量(5,353m³)



2 定期モニタリング成果に基づく実態解析

UAV写真における汀線変化

令和6年度に砂浜幅が特に狭かった区間(No.32~No.38)について、UAV写真を用いて汀線変化を確認した。3月時点でNo.35周辺で砂浜が狭く、11月にかけて回復しているものの目標砂浜幅35mを満たしていない区間が多い。

2024(R6)年3月7日
 潮位:T.P.+0.12 m
 波高:0.92 m
 周期:5.7 s



2024(R6)年7月26日
 潮位:T.P.+0.61 m
 波高:0.50 m
 周期:5.6 s



2024(R6)年9月25日
 潮位:T.P.+0.38 m
 波高:0.37 m
 周期:4.2 s



2024(R6)年11月20日
 潮位:T.P.+0.19m
 波高:0.95m
 周期:6.8s



※金沢港観測データ(速報値)を使用

徳光の波向き分析結果（令和5年度冬季風浪）

平均的な特性よりも高波浪が多く来襲しており侵食しやすい傾向であった。
 2024年1、2月は平均的な特性と比較してNNWの波向が多く、10月～3月の期間はN方向・NNW方向の波浪が多いことから土砂が漂砂下手に移動しやすい波浪条件であったため、侵食傾向と推測される。

表 有義波高4m以上の襲来回数と継続時間

| | 有義波高4m以上の襲来回数 | 有義波高4m以上の継続時間 |
|--|---------------|---------------|
| 2012年～2021年 (平均的な特性) ※10月～3月を集計し、1年あたりの数値を記載 | 12回 | 108時間 |
| 2023年10月～2024年3月 (昨年度の特性) | 13回 | 154時間 |

有義波高

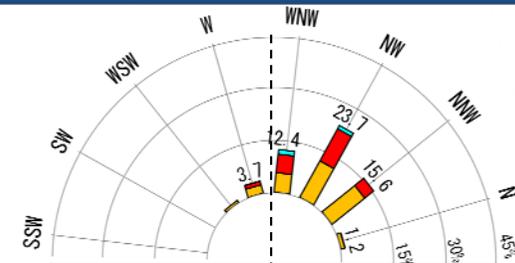
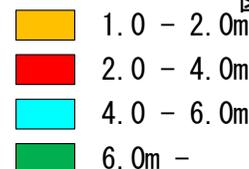


図 2012年～2021年の10月～3月の波高頻度分布図 (平均的な特性)

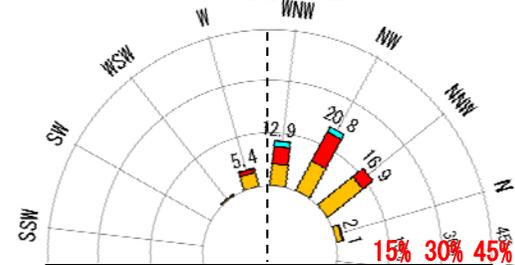
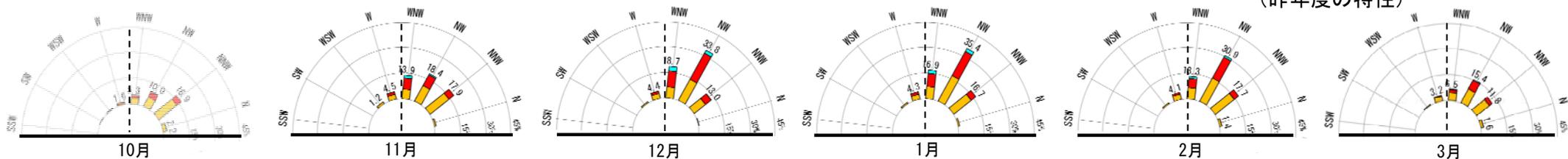


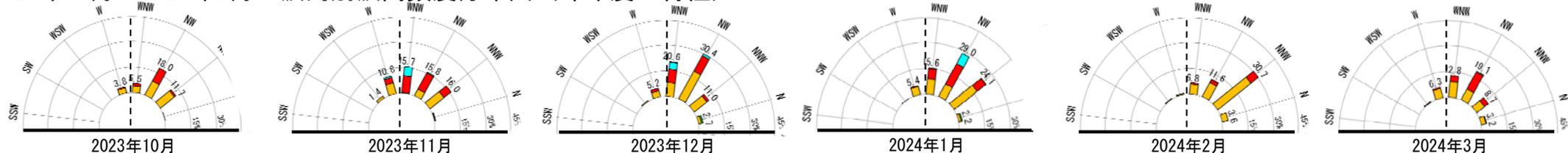
図 2023年～2024年の10月～3月の波高頻度分布図 (昨年度の特性)

千里浜海岸の平均的な汀線方向(74度)

■ 2012年～2021年の波向別波高頻度分布図 (平均的な特性)



■ 2023年10月～2024年3月の波向別波高頻度分布図 (昨年度の特性)



※徳光波浪観測データを使用(水深15m)

※波高頻度分布図は有義波高1m以上の波浪を対象にしており、図中の割合は1m未満の波浪も含めた割合

3. 昨年度(令和5年度)の陸上養浜の結果

令和5年度の陸上養浜実施方針

【昨年度の陸上養浜実施方針】

養浜実施箇所は、令和5年9月の砂浜幅及び令和3年度、令和4年度の陸上養浜結果を踏まえた養浜材の投入効果から

「No.36」の漂砂の上手側 ※志雄PA南側 とした。

また、これまでと同様

・ドライブウェイの通行幅を確保した。



【昨年度の陸上養浜の概要】

■投入時期：冬季風浪前（令和5年11月9日～12月5日）

■投入場所：志雄PA南側（No.35～基-5）

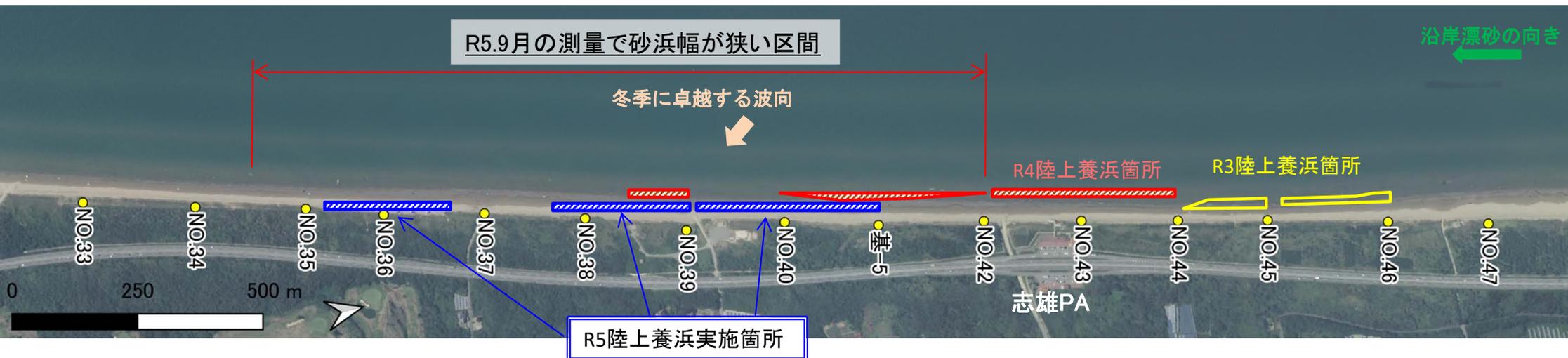
■投入土砂量：約7,000m³

【養浜盛土諸元】

これまでの陸上養浜と同様とする。

天端高：T.P.+3.0m

天端幅：～9m ※背後地幅に合わせて適宜施工



高波浪による陸上養浜土砂の流出状況

昨年度は11月末時点で高波浪を観測しており、令和5年11月28日の高波浪等により、土砂が流出した。

※金沢港観測データ(速報値)を使用



撮影日時 R5.11/5 10:10
盛土完成前 H=0.9m T=6.1s



撮影日時 R5.11/17 15:12
盛土完成後 H=2.0m T=6.2s



撮影日時 R5.12/1 10:54
盛土完成後 H=1.8m T=8.2s



撮影日時 R5.12/5 13:38
盛土完成後 H=0.8m T=6.2s



撮影日時 R5.12/19 9:22
盛土完成後 H=1.6m T=8.1s

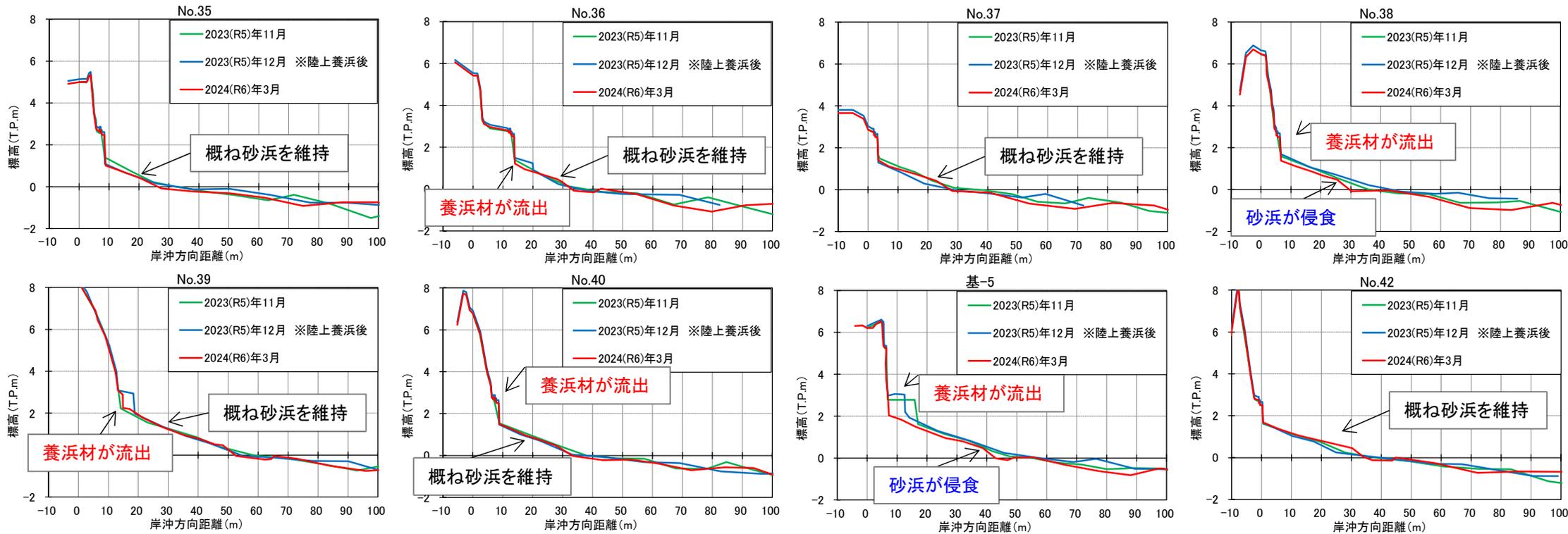


撮影日時 R6.2/2 14:00
最新 H=1.4m T=7.9s



陸上測量成果による分析

陸上養浜直後（2023年12月）と陸上養浜後3カ月（2024年3月）の測量を比較し、養浜材は概ね流出しており、砂浜を維持している区間もあれば、養浜したもののさらに砂浜が侵食した区間もある。砂浜幅が狭い区間について、直接的な土砂投入等の検討が必要である。



※基-5は11月測量前に養浜している。
 ※NO.35、37、42の測線上に養浜していない。

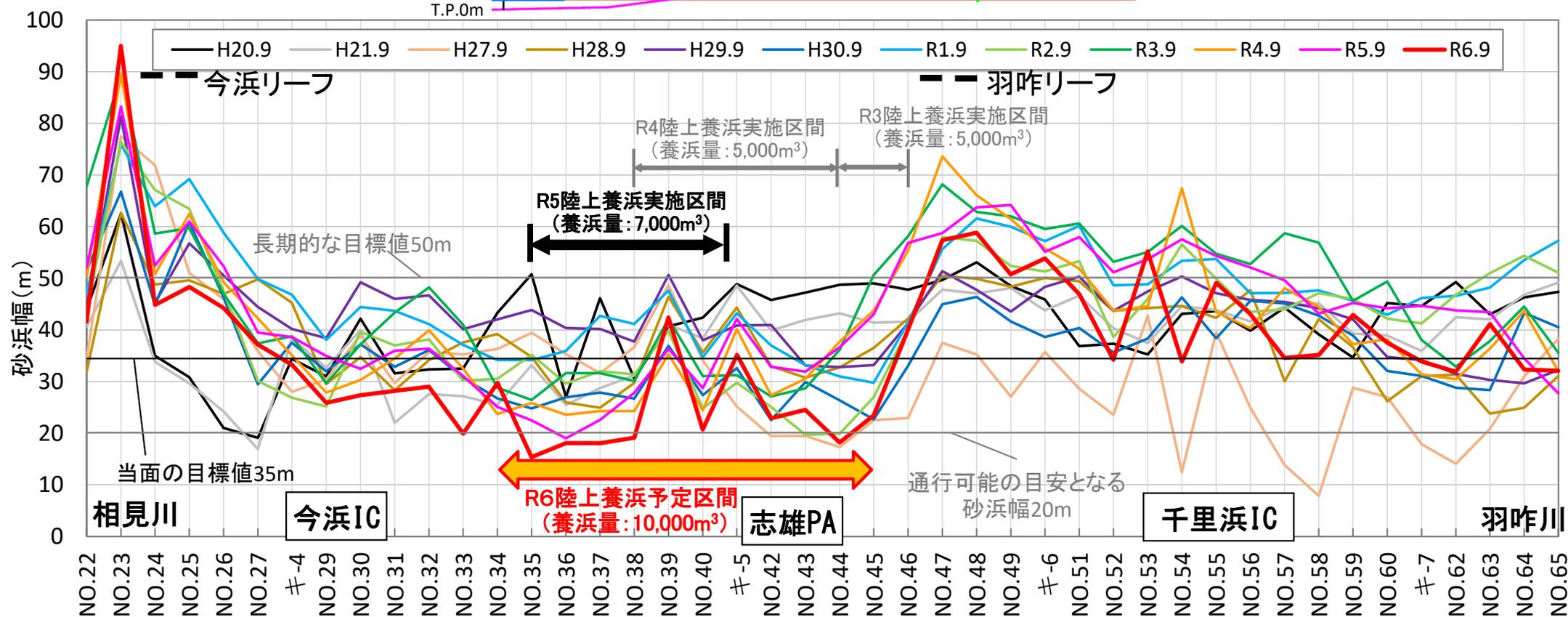
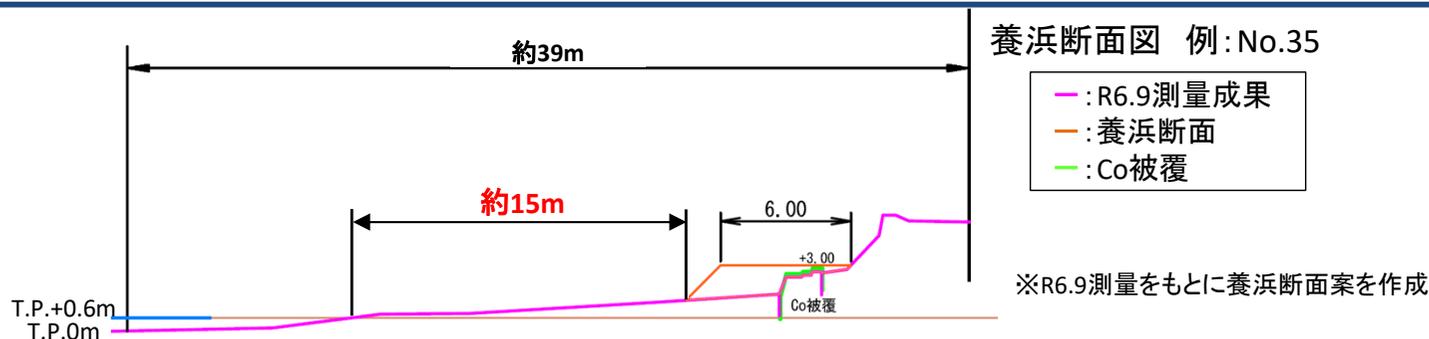


4. 今年度(令和6年度)の陸上養浜状況報告

今年度(令和6年度)の陸上養浜の対象範囲

【陸上養浜の対象範囲の選定】

令和6年9月測量より、No.33付近まで侵食しているため、例年より漂砂下手に養浜範囲を拡張する。投入範囲はNo.34～No.45とし、養浜量は10,000m³を想定。養浜砂に今浜IC付近の陸砂を一部使用した。

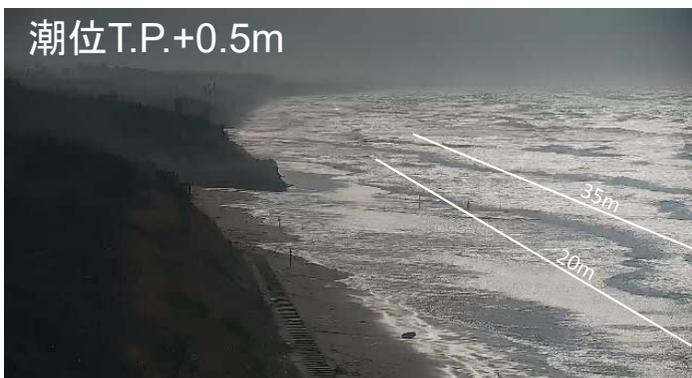


※砂浜幅は「護岸端部・ブロック端部・砂丘基部」から「T.P.+0.6m」までの距離とした。

高波浪による陸上養浜土砂の流出状況

目標養浜量10,000m³のうち、R7.2.5時点で5,353m³を投入済み。

※金沢港観測データ(速報値)を使用



撮影日時 R6.11.27 12:00
養浜前 H=3.4m T=8.0s



撮影日時 R6.12.4 12:01
盛土①完成後 H=2.8m T=8.3s



撮影日時 R6.12.14 12:00
盛土②完成後 H=2.1m T=7.5s



撮影日時 R6.12.26 12:01
盛土③完成後 H=2.4m T=6.9s



撮影日時 R7.1.8 12:00



撮影日時 R7.1.13 12:00



5. 今年度(令和6年度)の 海上採取・投入の結果

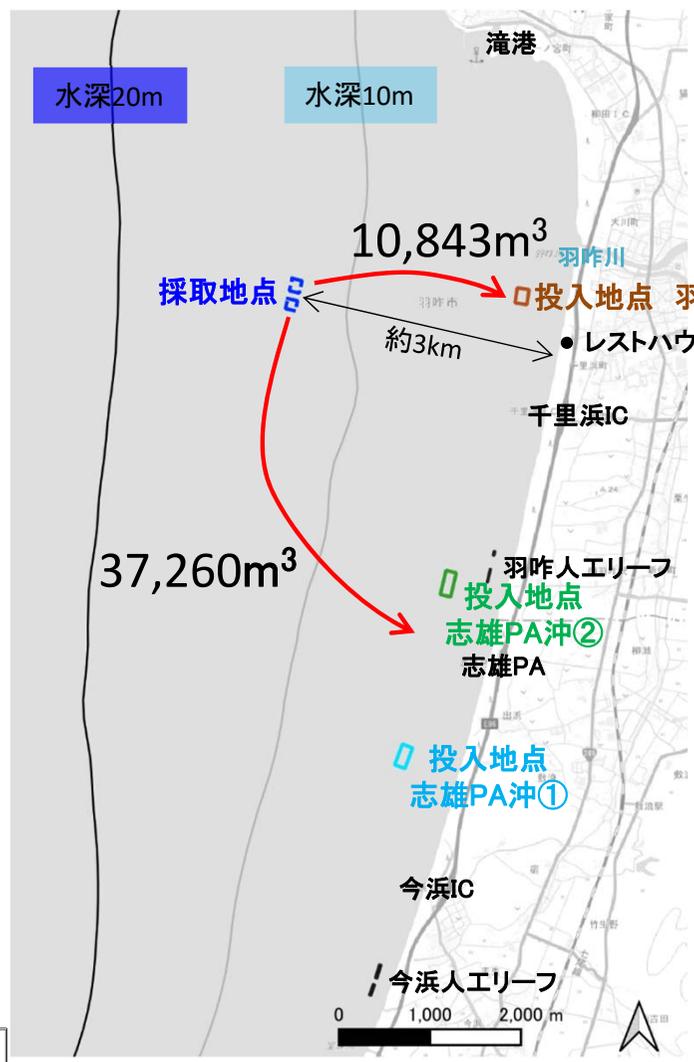
5 今年度（令和6年度）の海上採取・投入の結果

海上採取・海上投入の概要

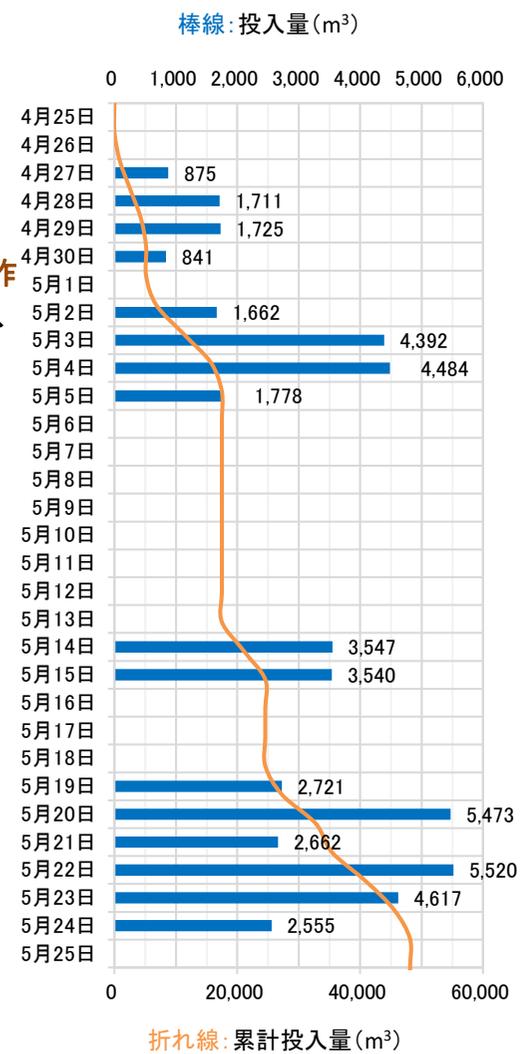
令和6年4月27日から5月24日まで海上採取・海上投入を実施した。令和6年度の採取・投入量は48,103m³。

| 年度 | 投入期間 | 投入量 | 採取箇所 | 投入箇所 |
|------------|------------|------------------------|------|------------------|
| H24 | 9/17~10/27 | 約15,000m ³ | 金沢港 | レストハウス沖 |
| H25 | 8/24~9/22 | 約25,000m ³ | 金沢港 | レストハウス沖 |
| H26 | ※浚渫のみ | なし | 金沢港 | — |
| H27 | 8/17~10/24 | 約37,000m ³ | 金沢港 | レストハウス沖 |
| H28 | 8/18~10/1 | 約20,000m ³ | 金沢港 | レストハウス沖 |
| H29 | 8/27~9/24 | 約20,000m ³ | 金沢港 | レストハウス沖 |
| H30 | 9/15~10/25 | 約19,000m ³ | 金沢港 | レストハウス沖 |
| H24~H30 小計 | | 約136,000m ³ | | |
| R3 | 8/24~9/27 | 20,056m ³ | 滝港沖 | 羽咋人工リーフ沖 |
| R4 | 5/11~7/3 | 30,880m ³ | 滝港沖 | 志雄PA沖 |
| R5 | 4/15~5/20 | 35,716m ³ | 滝港沖 | 志雄PA沖 レストハウス沖 |
| R6 | 4/27~5/24 | 48,103m ³ | 滝港沖 | 志雄PA沖 レストハウス沖 |
| 合計 | | 約270,800m ³ | | |

【採取・投入イメージ】



【R6海上投入実績：48,103m³】



【R6海上採取・投入方法】



採取：グラブ浚渫船D10.0m³

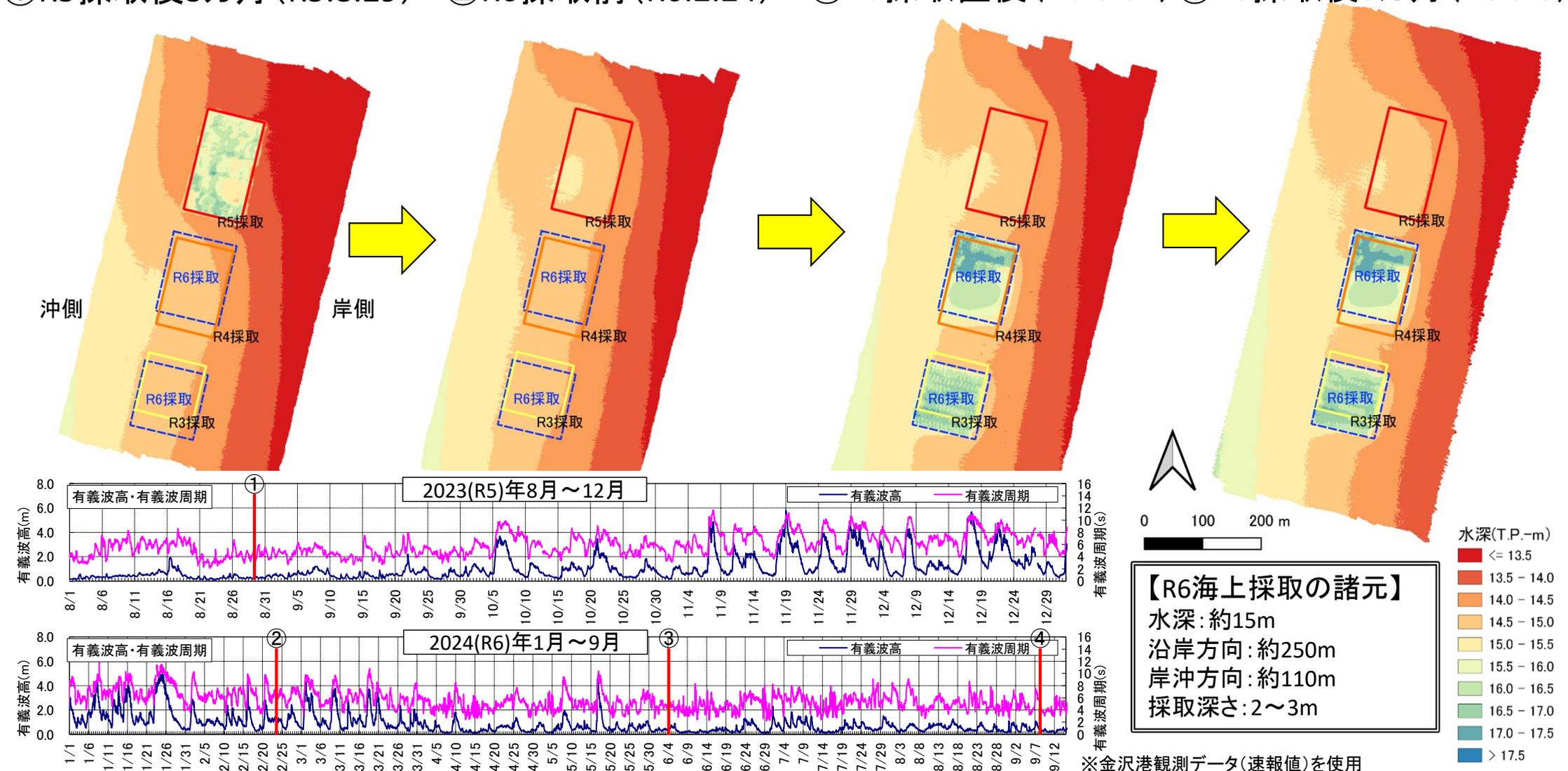


投入：土運船(底開船)1,000m³ × 2隻

海上採取地点の地形変化

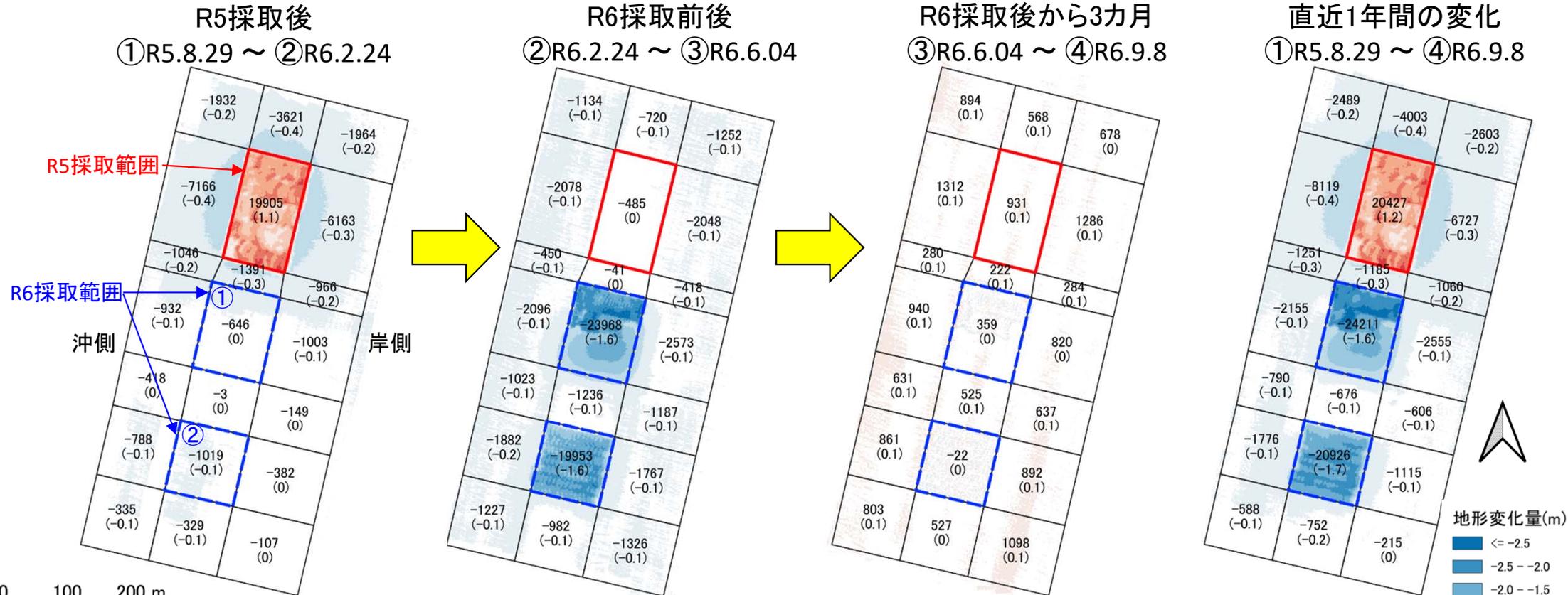
令和6年度海上採取は、令和3、4年度の採取箇所から採取した。
 令和5年度の採取箇所(赤枠)は、令和5年度採取から完全に埋め戻っておらず、一部へこんだままである。

- ①R5採取後3カ月（R5.8.29） ②R6採取前（R6.2.24） ③R6採取直後（R6.6.04） ④R6採取後3カ月（R6.9.8）



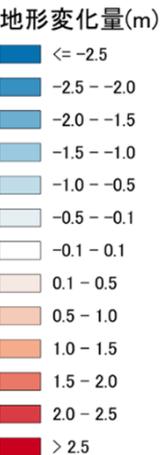
海上採取地点の地形変化（差分）

R5採取範囲は約20,000m³埋め戻っており、採取量約35,000m³に対して約60%埋め戻っている。
 周辺からまんべんなく埋め戻り土砂として使用されており、沖側と岸側で差が見られない。
 R6採取範囲は最新R6.9時点で周辺含めてほとんど埋め戻っておらず、今後もモニタリングを継続する。



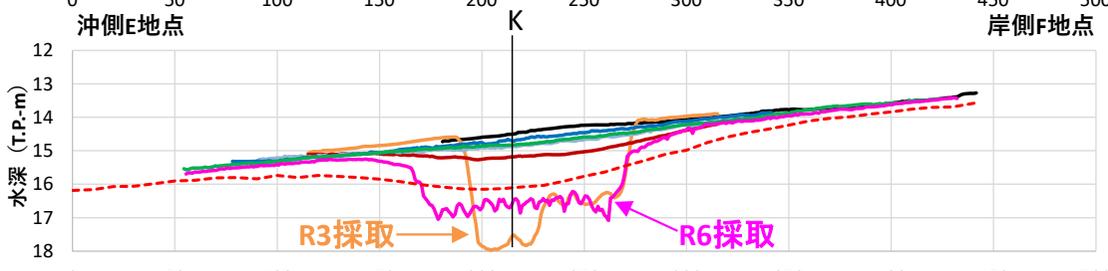
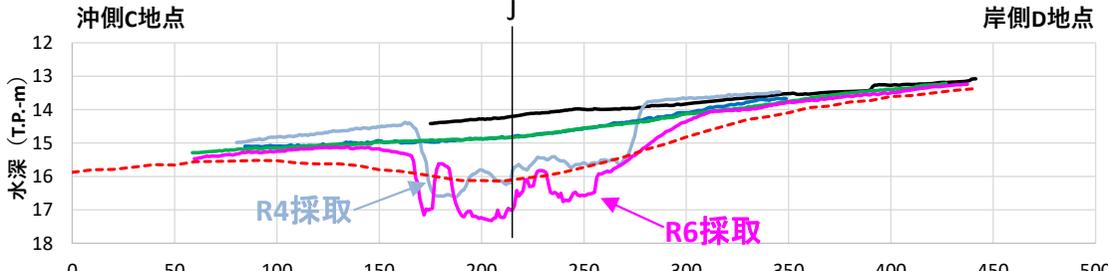
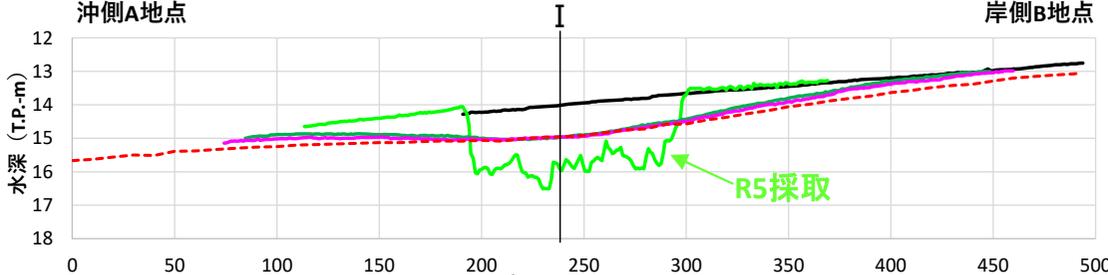
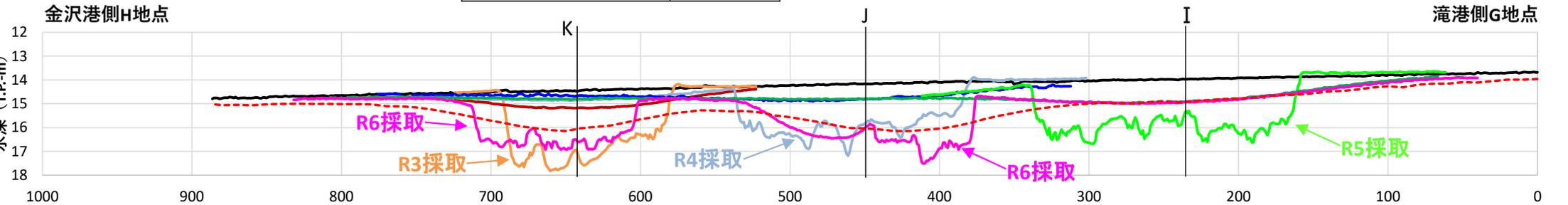
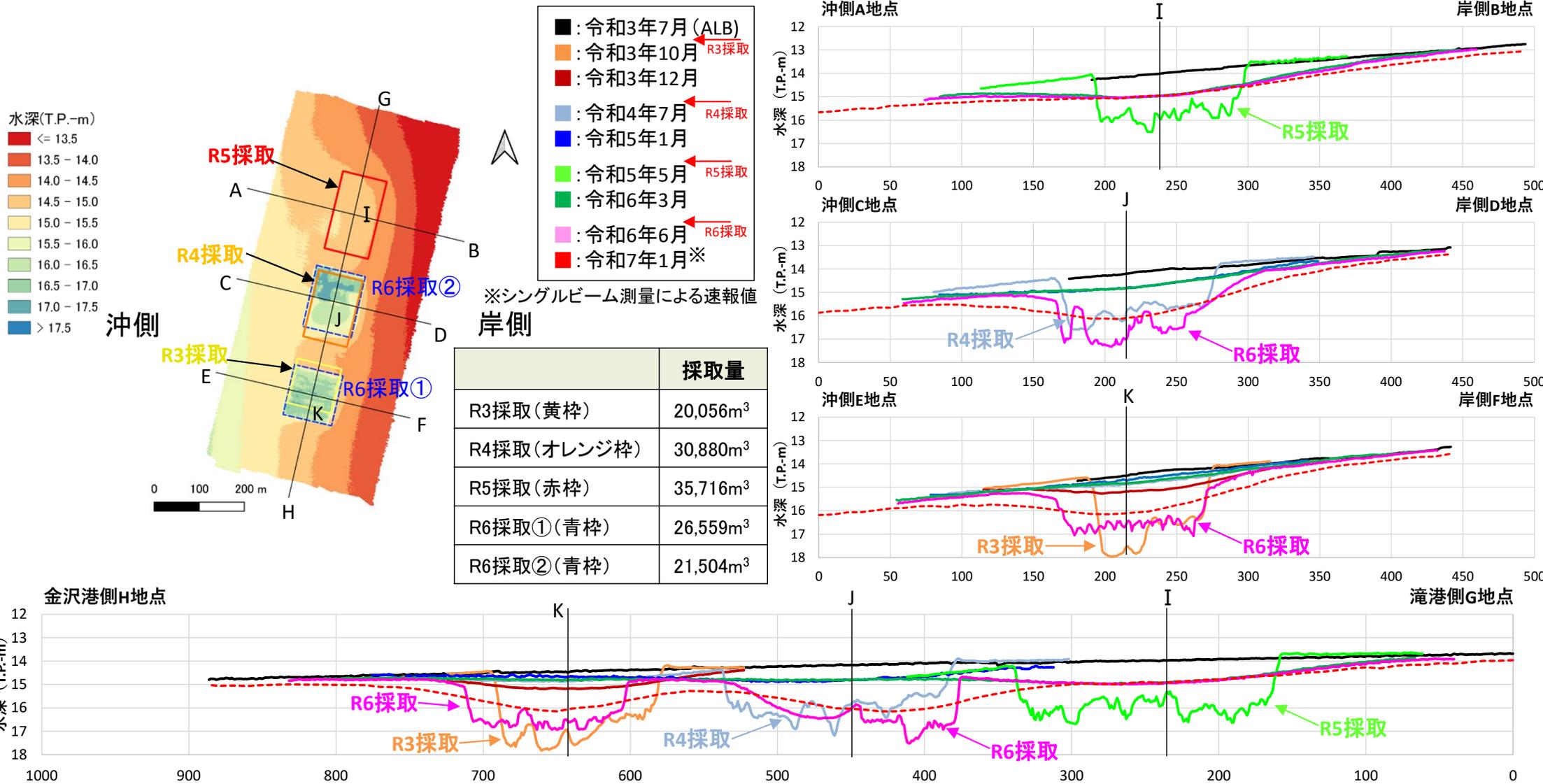
※数字は枠内の土量変化量(m³)
 ※カッコ()内は単位面積あたりの地形変化量(m³/m²)

| 地形変化量 (m ³) | R5採取後 ①R5.8.29 ~ ②R6.2.24 | R6採取前後 ②R6.2.24 ~ ③R6.6.4 | R6採取後から3カ月 ③R6.6.4 ~ ④R6.9.8 | 直近1年間の変化 ①R5.8.29 ~ ④R6.9.8 | 【参考】 海上採取量 |
|----------------------------|------------------------------|------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|---------------|
| R5採取範囲 | +19,905 | -485 | +931 | +20,427 | 35,716 |
| R6採取範囲① | -646 | -23,968 | +359 | -24,211 | 26,599 |
| R6採取範囲② | -1,019 | -19,953 | -22 | -20,926 | 21,504 |



海上採取地点の断面図

海上採取・投入を開始した令和3年度以降のNMB測量成果より、任意断面における断面図を確認した。埋め戻りは主に冬季風浪によるものであり、冬季風浪以外の期間で砂の流入・堆砂が発生している可能性は低い。令和3、4、5年いずれの採取箇所についても完全に埋め戻っておらず、特に令和5年度採取箇所はこれまでの採取箇所と比較して埋め戻りにくくなっている。



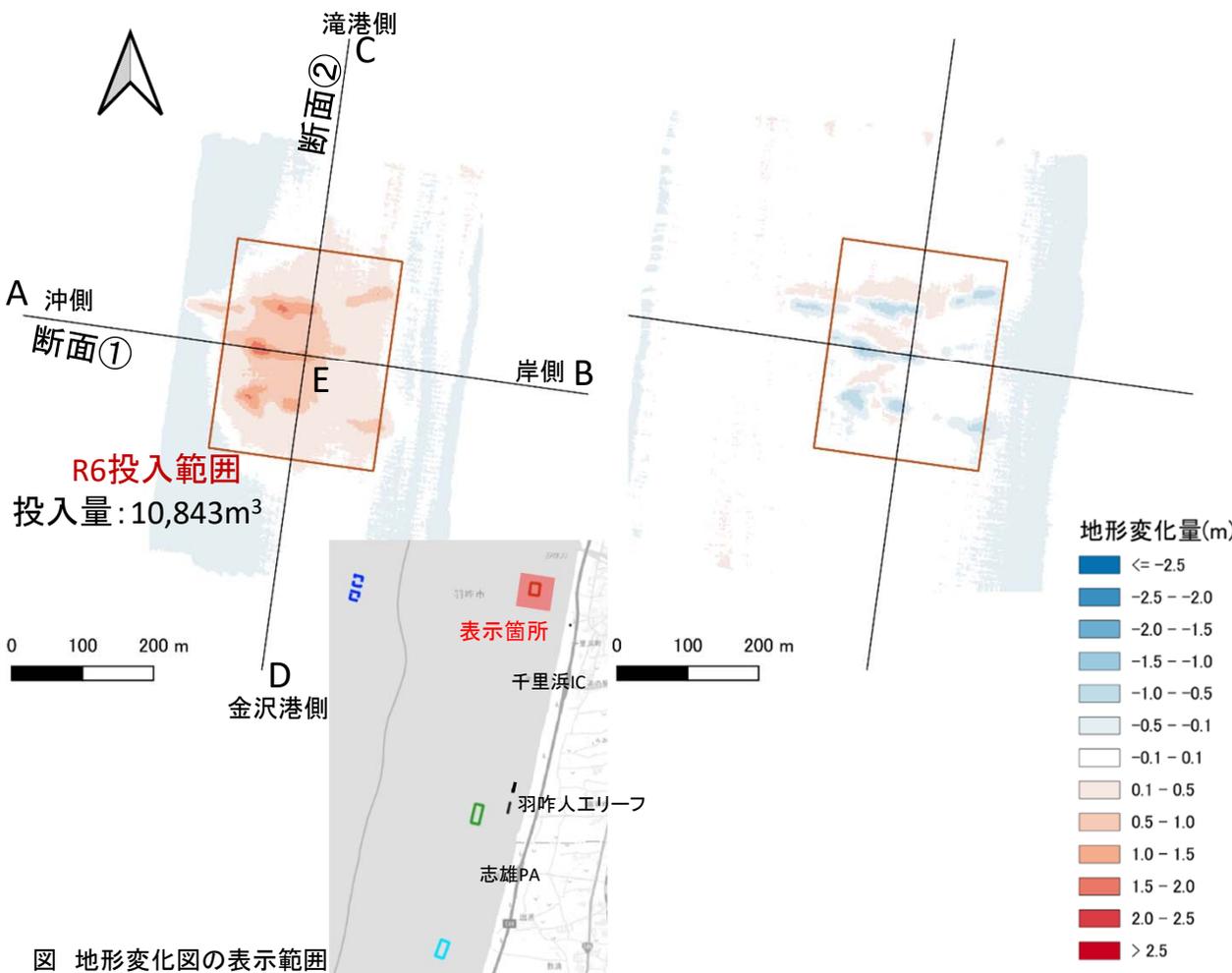
海上投入地点（レストハウス沖側）の地形変化

NMB測量より令和6年海上投入範囲（レストハウス沖）の地形変化は、6月（投入直後）から9月（投入完了3ヶ月後）にかけて大きな地形変化は見られない。
投入箇所はなだらかな地形となっている。

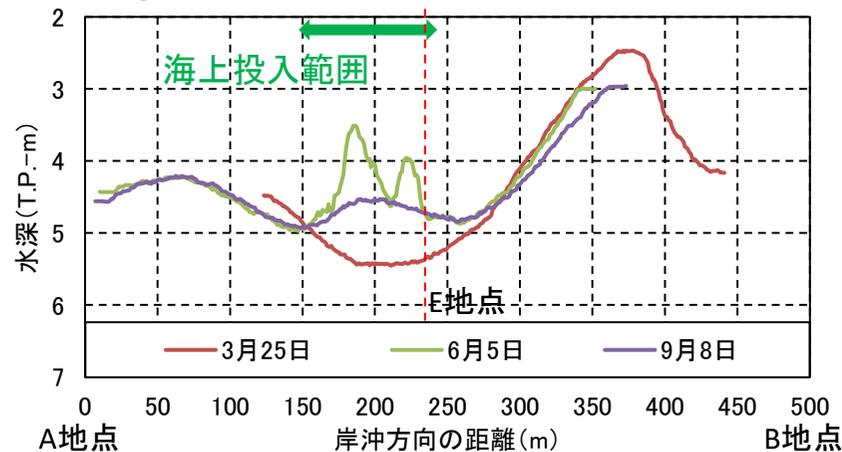
【地形変化】

投入前後
(R6.3.25 ~ R6.6.5)

採取後3ヶ月
(R6.6.5 ~ R6.9.8)



断面①(岸沖方向)



断面②(岸に平行方向)

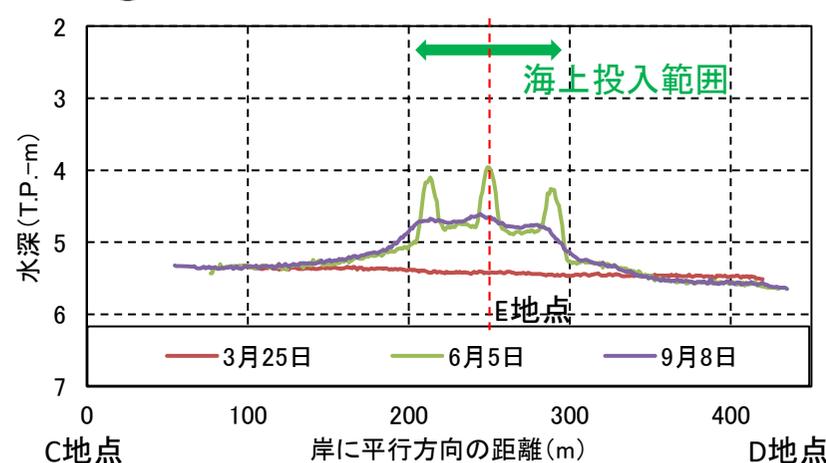


図 地形変化図の表示範囲

海上投入地点（羽咋人工リーフ下手側）の地形変化

NMB測量より令和6年海上投入範囲（羽咋人工リーフ下手側）の地形変化は、6月（投入直後）から9月（投入完了3ヶ月後）にかけて大きな地形変化は見られない。

投入箇所はなだらかな地形となっており、バー（沖合砂州）に取り込まれたと考えられる。

【地形変化】

投入前後
(R6.3.25 ~ R6.6.5)

採取後3ヶ月
(R6.6.5 ~ R6.9.8)

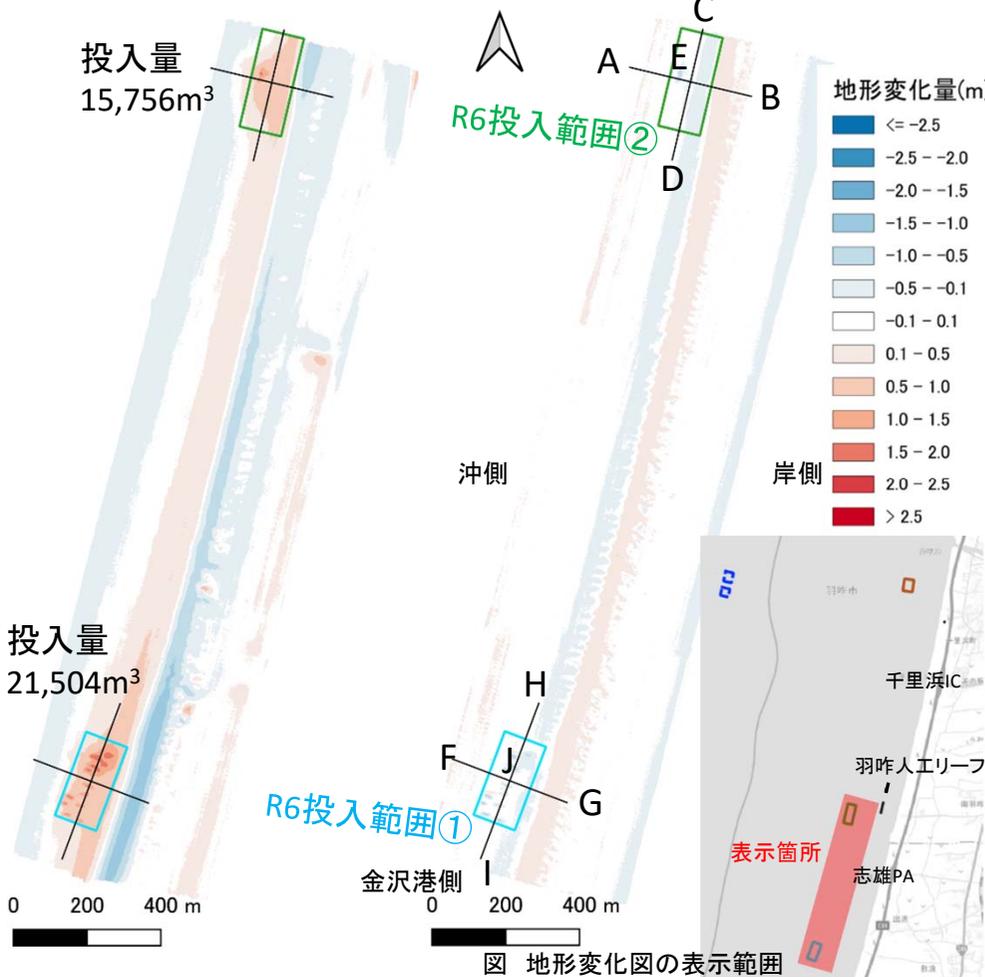
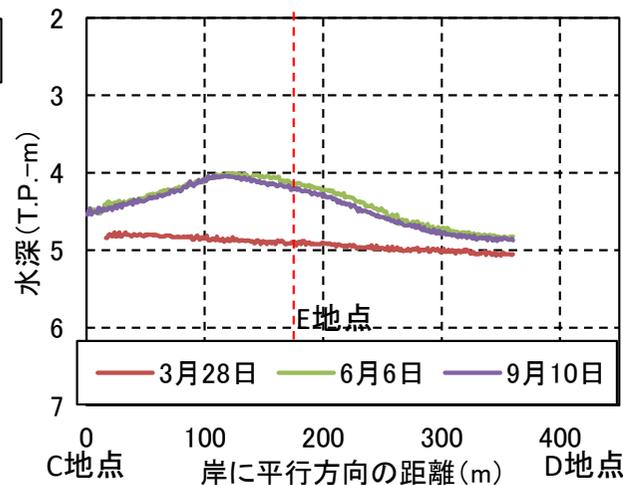
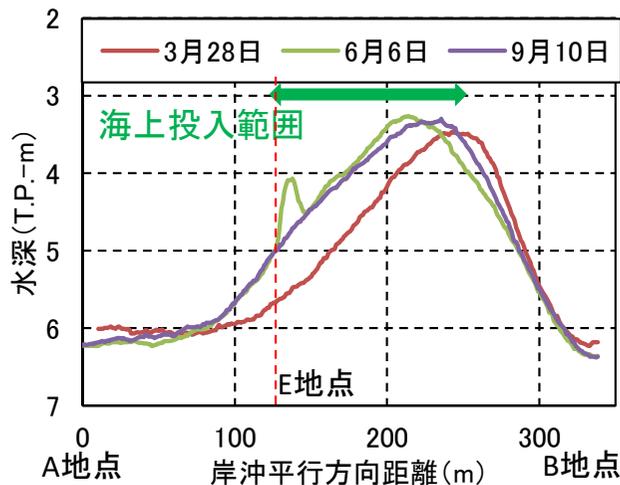
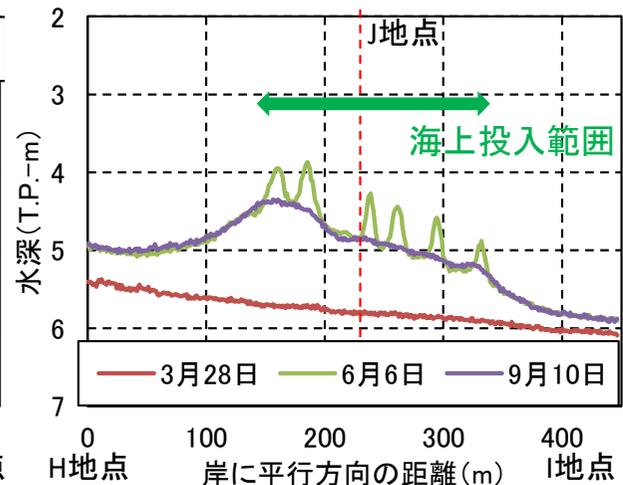
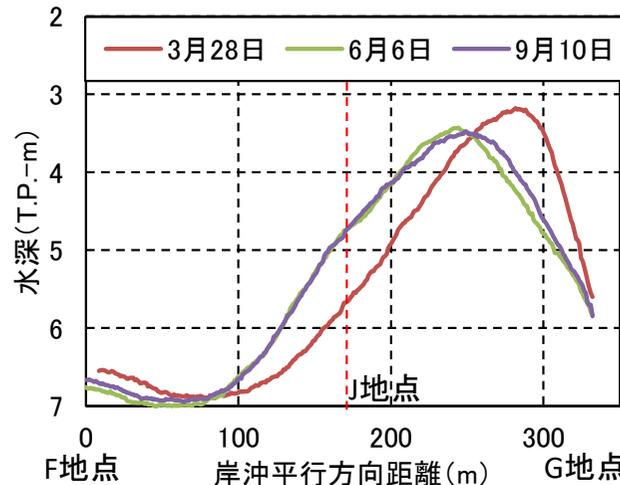


図 地形変化図の表示範囲

R6投入範囲②

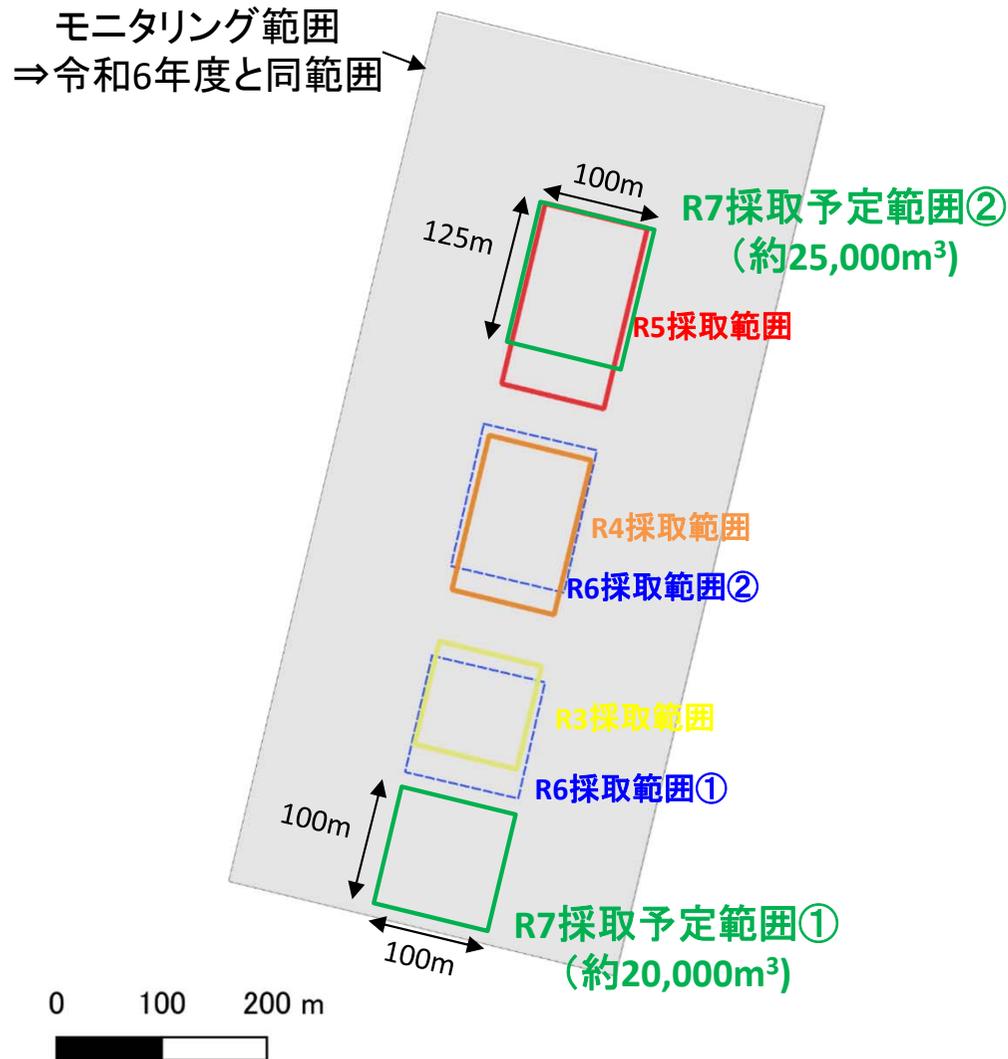


R6投入範囲①



令和7年度海上採取について

令和7年度海上採取は、令和6年度採取箇所（R5）の南側と令和5年度採取箇所（R6）から約45,000m³を採取予定。
 今後も令和6年度と同範囲のNMB測量を継続することで、採取範囲の埋め戻りについてモニタリングを行う。



【R7のNMB測量】年3回を予定

- ・1回目 採取直後：5～6月頃
- ・2回目 採取後3ヵ月：8～9月頃
- ・3回目 冬季風浪後：2～3月頃

| | 海上投入 |
|------------------|-----------------------|
| 2021(R3)年 | 20,056m ³ |
| 2022(R4)年 | 30,880m ³ |
| 2023(R5)年 | 35,716m ³ |
| 2024(R6)年 | 48,103m ³ |
| 2025(R7)年 ※予定 | 約45,000m ³ |

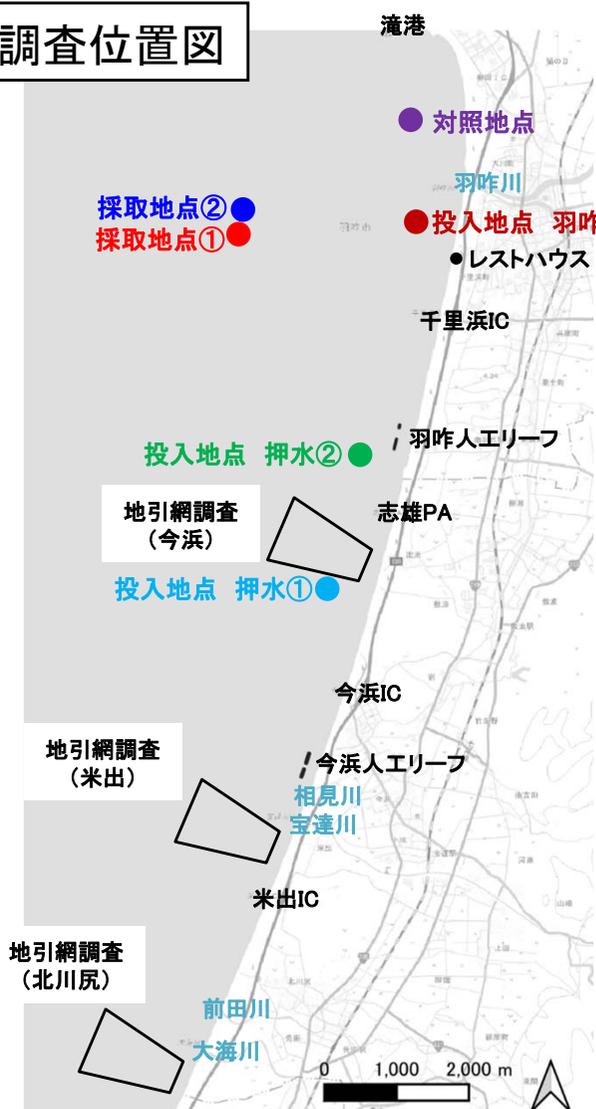
環境調査結果（地引網調査、底質調査）

地引網調査の漁獲量について、令和6年度海上投入後である6月～10月は、漁獲量の事業有無における変動傾向は例年通りであり、獲れた魚種の変化も見られなかった。

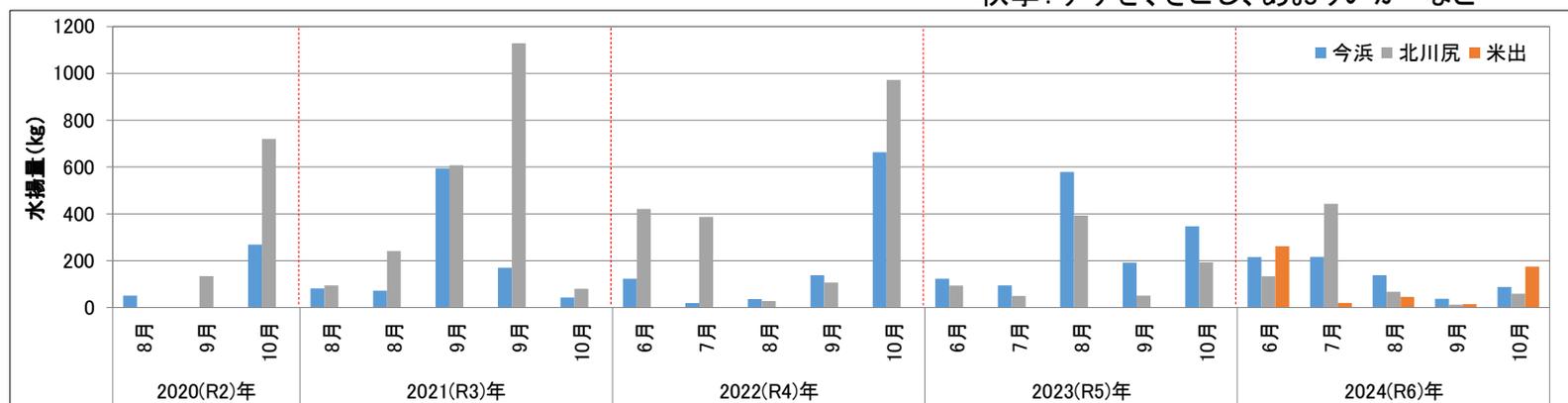
底質調査結果について、採取地点はドライブウェイと比較してやや細かい粒径であった。

夏季：すずき、まだい、あじ、あおりいか など
 秋季：すずき、さごし、あおりいか など

調査位置図

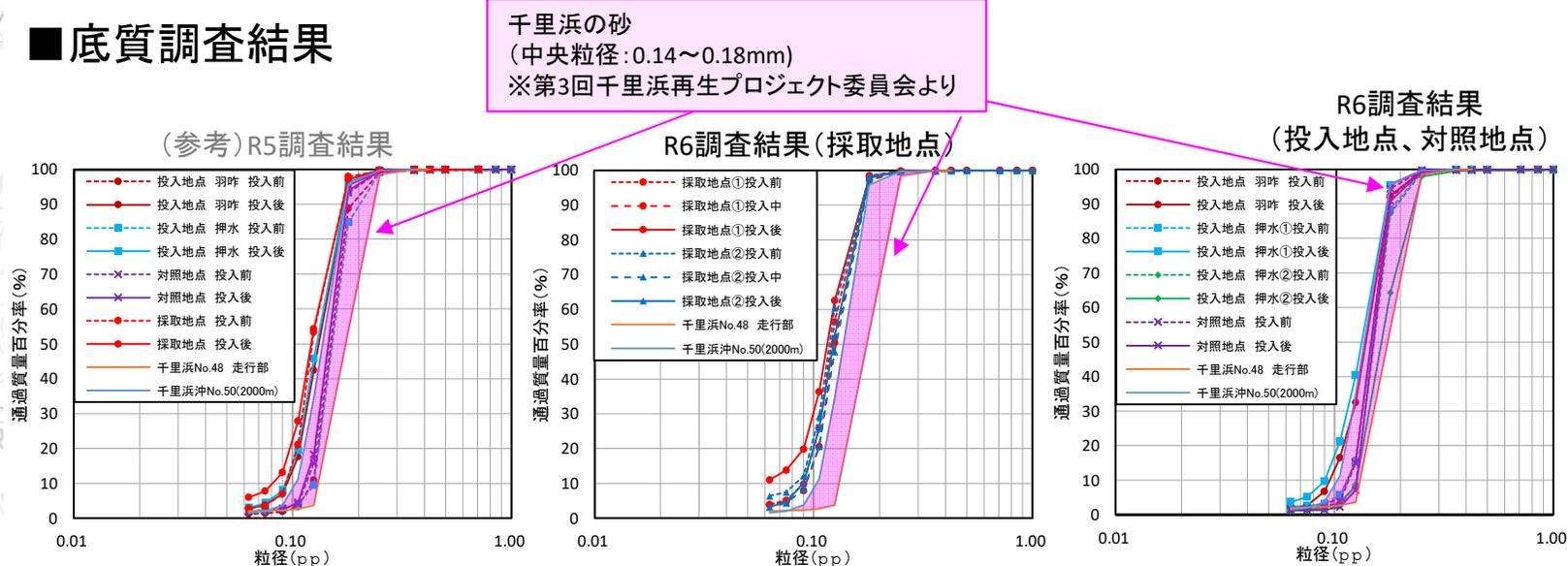


■地引網調査の漁獲量



※2024(R6)年から米出が調査箇所に追加された。

■底質調査結果

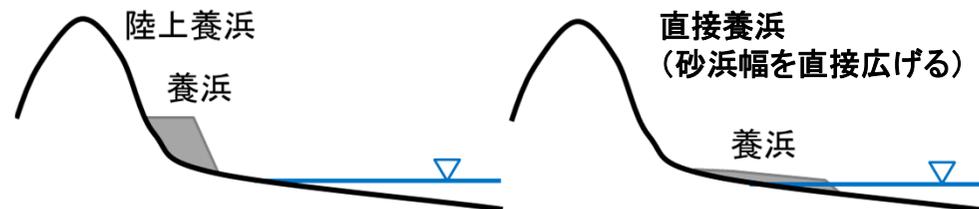


6. 今後の侵食対策方針

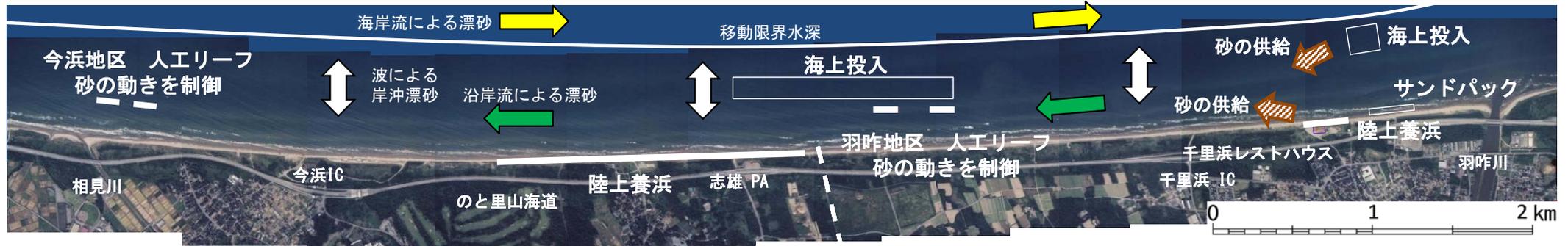
侵食対策の実施方針

今年度の陸上養浜の残り約5,000m³について、冬季風浪後の現地状況を確認し、直接養浜の実施を検討する。今後、直接養浜箇所を経過をモニタリングしていくとともに、積極的に砂浜の回復に取り組む。

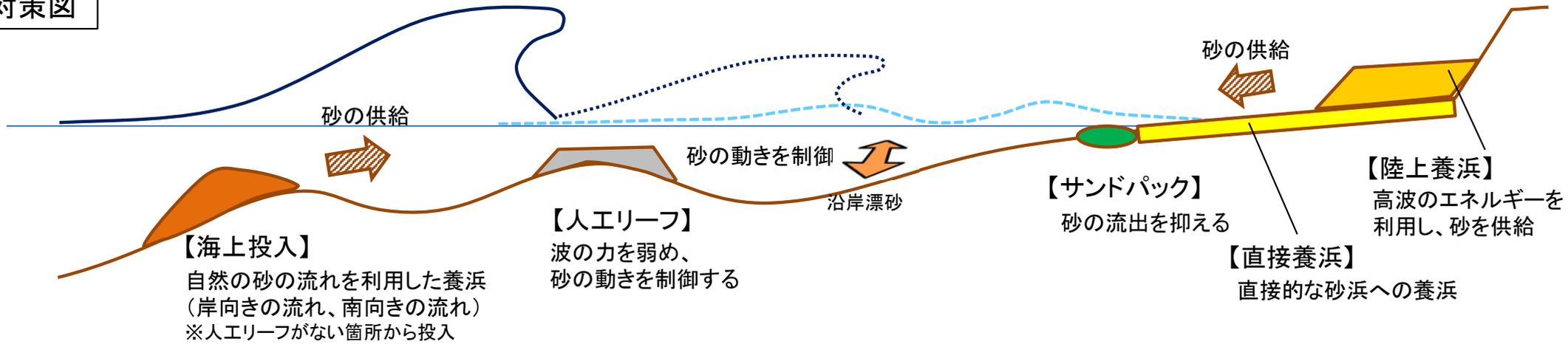
| | 役割 | 砂浜回復に寄与する効果の違い | メカニズム |
|------|--|---|--|
| 海上投入 | <ul style="list-style-type: none"> 効率よく大量の土砂を投入することにより土砂バランスの不均衡を改善。 沖合砂州(バー)付近に投入することで、消波効果を高めるとともに、バーの保全に繋がり海岸域全体の土量を維持することができる。 <p>絶対量が不足している土砂収支の改善</p> | <ul style="list-style-type: none"> 自然の流れを利用するため、時間をかけて効果が現れる。 千里浜海岸全体の土砂収支の改善を目的としており、海岸全体に効果を発揮。 | <ul style="list-style-type: none"> 自然の砂の流れを利用した養浜(岸沖漂砂、沿岸流による漂砂) |
| 陸上養浜 | <ul style="list-style-type: none"> 陸側に養浜材を設置し、冬季風浪により、自然の力で砂を供給する。 <p>砂浜幅の回復 (ドライブウェイに近い箇所での収支の改善)</p> | <ul style="list-style-type: none"> 陸上養浜は砂浜に投入しているため、効果がすぐに現れやすい。 冬季風浪後の沿岸漂砂により、砂浜幅が回復する効果。 | <ul style="list-style-type: none"> 冬季風浪などの高波のエネルギーを利用し、砂を供給 |
| 直接養浜 | <ul style="list-style-type: none"> 直接的な砂浜への養浜により、砂浜幅を広げる。 <p>砂浜幅の拡張(ドライブウェイの確保)</p> | <ul style="list-style-type: none"> 直接、養浜によって砂浜幅を広げるため、養浜後すぐに効果が現れる。 | <ul style="list-style-type: none"> 人為的な砂浜幅の回復 大きい波浪を受けると流出 |



侵食対策の概念図（イメージ）



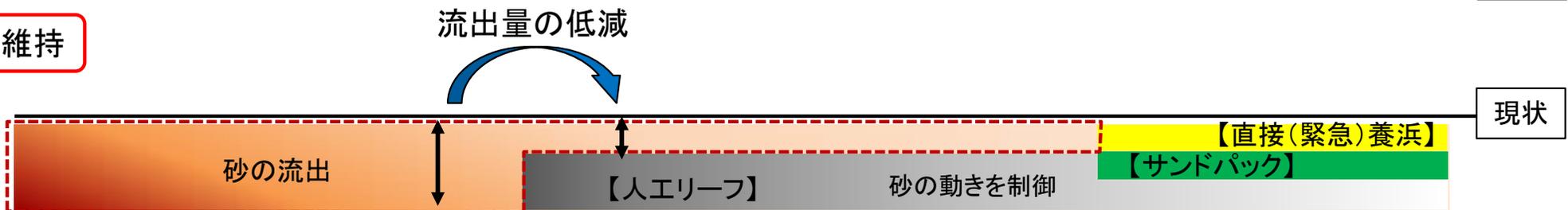
対策図



砂浜の回復



砂浜の維持



7. 海岸保全の意識向上のための取組み(ソフト施策)

令和6年度 各種イベント（子ども参加型）

(1)「千里浜海岸ものしり教室」



ものしり教室の様子(押水第一小学校)

令和6年11月6日～ 11月8日
宝達志水町内の3小学校
参加児童総数 55人

[内訳]

宝達志水町3校：宝達、相見、押水第一

(2)「千里浜なぎさふれあい教室」



稚魚(ヒラメ)の放流

令和6年7月2日(火)
稚魚放流、砂文字、一人一砂運動（※地引網体験は中止）
参加者72人

[宝達小：28人、相見小：17人、樋川小：14人、志雄小：13人]



一人一砂運動



砂文字と記念撮影

子供の頃から、地元の貴重な財産である千里浜海岸に興味を持ち、海岸保全の意識を高めることは非常に有意義であることから、地元の小学校において、千里浜再生プロジェクトの取り組みを学ぶ「千里浜海岸ものしり教室」や、稚魚放流等により海と触れあう楽しさを経験する「千里浜なぎさふれあい教室」を行っています。

令和6年度 各種イベント（観光客参加型）

(3)「千の輝き」（令和6年9月7日（土））



ステージイベント



一人一砂運動



ブースの設置

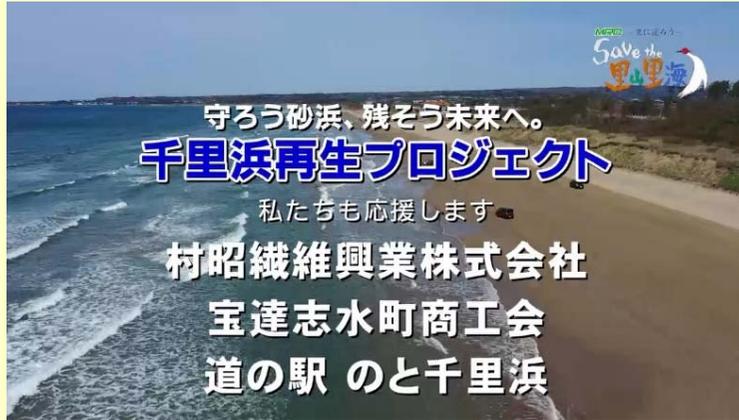


千里浜海岸浸食防止祈願祭

地元の千里浜海岸浸食防止祈願祭と同時開催した「千の輝き」では、様々なステージイベントが行われたほか、一人一人が波打ち際に砂をまく「一人一砂（ひとりひとすな）運動」のブースを設置するなど、千里浜海岸の魅力を堪能してもらいました。

令和6年度 情報発信・広報活動

(4) マスコミを活用した宣伝活動（通年で実施）



スポットCM、協賛CM（H24.1～）

令和6年度の協賛企業について【R6.12月末現在】

・協賛企業数：32社

(5) 県政出前講座

令和6年6月～10月に4回実施



県政出前講座の様子

(6) 千里浜に関する資料の展示

令和4年9月～展示を開始



資料展示の様子(羽咋市立図書館)

マスコミを活用した宣伝活動のほか、石川県が行っている事業や取り組みを紹介する「県政出前講座」にて、「千里浜なぎさドライブウェイの保全」についての講座を県内の小学生や企業に対して実施しました。また、地元の図書館で千里浜に関する資料を展示するなどの広報活動を行っています。

令和6年度 その他の活動状況

(7) 千里浜で開催するイベントへの支援（通年で実施）



SSTR2024 (R6.10.5~10.20)



プロジェクトのPRを行うブースを設置
ジェットスキー全日本選手権 (R6.7.12~7.14)

千里浜再生プロジェクト実行委員会が主催するイベント以外の様々な集客イベントに対して、協賛金を活用した支援を行い、イベント内で千里浜再生プロジェクトの活動などを幅広く情報発信しました。

(8) 一人一砂運動（通年で実施）



ジェットスキー全日本選手権 (R6.7.12~14)



砂袋の常設化 (能登千里浜レストハウス)

各種イベントにおいて、参加者による「一人一砂運動」を実施しています。
また、能登千里浜レストハウス内に砂袋を常設しています。

令和7年度の予定

千里浜再生プロジェクト実行委員会が中心となり、引き続き、企業や団体からの協賛を得ながら、各種イベントの継続実施、情報発信、協賛金の海岸管理への活用を進める。

8. まとめ

まとめ

1. 定期モニタリング成果に基づく実態解析

- 令和6年9月の砂浜幅は令和5年9月と比較して千里浜海岸全体で砂浜幅が減少していた。
- 特にNo.35～No.38は通行可能の目安となる砂浜幅20mを下回っている。

2. 昨年度（令和5年度）の陸上養浜の結果

- 冬季風浪前に砂浜幅の狭くなっていた志雄PA南側No.35～基-5で約7,000m³の養浜を実施した。

3. 今年度（令和6年度）の陸上養浜状況報告

- 冬季風浪前に砂浜幅の狭くなっていたNo.35～No.45に約5,000m³を養浜した。
- 養浜砂に今浜IC付近の陸砂を一部使用した。

4. 今年度（令和6年度）の海上採取・投入の結果

- 4～5月にかけて、滝港沖で海上採取した約48,000m³の砂を羽咋地区人工リーフ南側とレストハウスの沖合へ投入した。
- 採取した箇所は、9月時点でほとんど埋め戻っておらず、今後もモニタリングを継続する。

5. 今後の侵食対策方針

- 今年度の陸上養浜の残り約5,000m³については、冬季風浪後の現地状況を確認し、直接養浜の実施を検討する。
- 直接養浜箇所の経過をモニタリングしていくとともに、積極的に砂浜の回復に取り組む。

6. 海岸保全の意識向上のための取組み（ソフト施策）

- 令和7年度も引き続き、各種イベントの継続実施、情報発信、協賛金の海岸管理への活用を進める。